

2021年2月12日

各位

株式会社 紀陽銀行

小型ロケットによる商業宇宙輸送サービスの事業化をめざす
「スペースワン株式会社」への出資について

株式会社紀陽銀行（頭取：松岡 靖之）は、小型ロケットにより小型人工衛星を地球周回軌道に打上げる「商業宇宙輸送サービス」の事業化をめざす「スペースワン株式会社」（本社：東京都港区、代表取締役社長：太田 信一郎、以下「同社」）に出資をおこないましたのでお知らせいたします。今回、同社発足時からの株主4社に加えて、初めて新たな株主として当行が出資します。

同社は、「契約から打上げまでの「世界最短」と、打上げの「世界最高頻度」をめざす、小型ロケットによる打上げサービス」をサービスコンセプトとし、和歌山県串本町において、民間企業が建設する日本初のロケット打上射場を建設中であり、2021年度中の事業化、2020年代半ばに年間20機の打上げをめざしています。

同社のプロジェクトは、和歌山県の試算では経済波及効果を10年間で670億円程度と見込んでおり、和歌山県は無利子融資を実施して誘致を後押しするなど、地域を挙げてのプロジェクトです。

紀陽銀行は、同社への出資を通じ、人的支援や地元企業とのビジネスマッチング等同社との連携を進め、宇宙ビジネスを軸とした観光振興や産業振興による地域経済の活性化に貢献してまいります。

【出資の概要】

出 資 先	スペースワン株式会社
当行出資金額	3億円（出資比率 2.9%）
同 社 の 株 主	キャノン電子(株)、(株)IHIエアロスペース、清水建設(株)、(株)日本政策投資銀行、(株)紀陽銀行

(ロケット発射場の完成イメージ)



以上

本取り組みは、SDGs（持続可能な開発目標）のゴール8「働きがいも経済成長も」、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる取り組みです。

